令和2年度第2回郡山市学校教育審議会特別委員会（書面会議）会議録

日 時	令和3年2月17日（水）から3月2日（火）まで			
出席者	富田 孝志会長（特別委員会委員長）、村上 文生委員、橋本 ゆかり委員、平塚 康晴委員、松崎 昭委員、橋 文紀委員			
報告事項	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%; border: none;"> 通学区域弾力的運用制度の申請状況等について 1 令和3年度就学予定者の申請状況等 (1) 周知（募集）期間・方法 (2) 申請集計 2 過大規模校の現状と今後 3 今後の主なスケジュール </td> <td style="width: 5%; border: none; text-align: center; vertical-align: middle;">}</td> <td style="width: 35%; border: none; vertical-align: middle;">資料のとおり</td> </tr> </table>	通学区域弾力的運用制度の申請状況等について 1 令和3年度就学予定者の申請状況等 (1) 周知（募集）期間・方法 (2) 申請集計 2 過大規模校の現状と今後 3 今後の主なスケジュール	}	資料のとおり
通学区域弾力的運用制度の申請状況等について 1 令和3年度就学予定者の申請状況等 (1) 周知（募集）期間・方法 (2) 申請集計 2 過大規模校の現状と今後 3 今後の主なスケジュール	}	資料のとおり		
議 事	・審議事項なし ・報告事項1、2、3			
会議内容				
1 開会	<p>令和2年度第2回郡山市学校教育審議会特別委員会は、「郡山市学校教育審議会条例（以下「条例」という。）」第9条に基づき、新型コロナウイルス感染症対策対応のため、会長が書面会議と定め、条例第6条に基づき開催した。</p> <p>特別委員6名のうち、出席者は6名であり、条例第6条第2項に規定する、特別委員の過半数の出席があるため、この特別委員会は成立している。</p>			
2 議事	・報告事項1、2～意見聴取 ・報告事項3			
特別委員 からの意見 1について	<p>・周知することがいかに大きいか、また、それぞれの家庭の状況、考え方に応じて学校を選択したいと考えておられる方が意外と多いことを図らずも知ることになったように思います。いただいた結果は、それぞれの学校における特色ある学習活動の重要性とそれらの広報が大きな鍵になったことを示唆していると思います。制度の難しさは理解しますが、学校の受け入れ容量の視点からだけでなく、教育の活性化を図るためにも、それぞれの学校が特色ある教育を模索しそれを広く知らせ、就学の積極的な選択がなされるよう、さらに研究していかれることを希望します。</p> <p>・学校教育推進課の様々な広報活動が功を奏してきて、隣接区域選択制も特認校制も申請状況が上向き傾向であることは喜ばしいことである。ただ、行健第二小学校学校と富田東小学校学校が年々児童数が増えているのが気になる。今後も周知、広報活動は継続して行い、もう少し児童の流れを増やすことが必要である。</p> <p>・通学区域弾力的運用制度の周知がすすみ、市民、保護者にその意義が理解されるようになってきたと感じました。途中の学年からより入学時に制度を利用することが、児童、保護者ともにスムーズな学校生活につながるので、今後も未就学児の家庭への周知を大切にしていけることが必要だと思えます。</p> <p>・西田学園への入学希望が増えてきている。金透小学校へは行健第二小学校からは無しで、富田東小学校からは3人、その他の地域から10人、運用制度はこれでいいのか難しいと思います。金透小学校を特認校にすることは、教育の格差につながらないか心配です。始めてしまったものも止めることはできないと思いますが、教育委員会が教育の格差を作ってはならないと考えます。そうならないよう配慮を願います。</p> <p>・就学予定者について私なりの意見を申し上げます。資料にあるように、富田東小学校と行健第二小学校の児童数が益々マンモス校になっていくばかりなので、隣接校への希望児童の対応が重要であるが、他校への希望者を進めていくには、保護者の理解が重要ではないでしょうか。それには、もっと学校と保護者、学校と地域との信頼関係を強くし、絆を深めていくことが最重要だと思えます。2025年まで増加傾向にあるようなので、そこまで皆さんで知恵を出し合い、対策を立てて、子供達の為に頑張っていきましょう。</p> <p>・かなりの人数の申請があって良かったと思います。喜久田小学校への転入が5名あったことが特に良かったですが、大島小学校への転入がそれ以上だったので、保護者の方の通勤の関係等もあったかと思いました。1年生から希望するのは仕方ないので、西田学園後期課程の申請がゼロであったこともよく考慮していかなければならないと思いました。過大規模校においては、今後35人クラスになった場合の事もよく配慮していかなければならないですし、今、色々と問題となっている教師の質の向上等郡山市でも県と協力して早急に取り組んでいけたらと思います。コロナ、地震と子ども達を取り巻く環境の厳しさを少しでも緩和できるよう努力したいと思えます。</p>			

<p>特別委員 からの意見</p> <p>2について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後35人クラスと少子化について、策を講じていかないといけないと強く思いました。なかなか転出先を指定することはできませんが、喜久田小学校が増加できるようにしてあげたいと思います。 ・過大規模校は、富田東小学校と行健第二小学校の対策をすれば良いのではないのでしょうか。あと4、5年までで、後は少しずつ減少傾向になっていくようなので、その間の対策としては、保護者の理解を求めて隣接校に移転をお願いするようにしたらどうですか。他校を希望する子供には何か良い条件を出してお願いするとか、例えば、10人位希望者を募って、送り迎えには通学バス等を使って西田学園等に転校をお願いするとかはいかがですか。 ・時折、八山田周辺を通りますが、まだまだ住宅が増えているように感じます。ようやく制度申請人数が47名になりましたが、そこに住む親の立場としては自宅から近い学校にかよわせたいと思うのが普通だと思います。今後周りには田んぼが多く宅地開発などの情報があつた場合は学校増設なども検討いただきたいと思います。隣接校への選択は継続した方がいいと思います。 ・過大規模校は一つの行事や諸活動を運営するにも課題が多く、児童、職員共に心身への負担は大きいと思います。児童一人一人の健やかな成長のために、解消のための努力の継続が必要です。教育活動のすすめ方の工夫だけでなく、環境作りも重要だと思います。該当学校だけでなく、広い視野をもって工夫していくことが大切だと思います。 ・行健第二小学校学校と富田東小学校学校の児童の増加傾向を見ると、現在の特認校制のみによる対応には限界があるように思います。現在の施設で、行健第二小学校と富田東小学校がこの児童の増加に対応できるならよいのですが、児童数の増加に今のキャパシティで収容できるのかが疑問です。プレハブなどの施設が必要になってくると思います。 ・児童生徒数の推移を考えると、過大規模校について校舎の増築などの選択は成り立たないと考えます。小学校の高学年の教科担任制の導入とか、地域の小学校、中学校の相互乗り入れなど、これまで試みられていない特色ある教育を考え、学校の特色ある教育の魅力で就学の選択が行われていくように考えていくべきではないのでしょうか。SNSの時代、学校の特色ある教育はすぐ拡散します。ますます質による選択が行われるようになると思います。SNS、ICTが就学も変える可能性があると思います。
------------------------------------	---